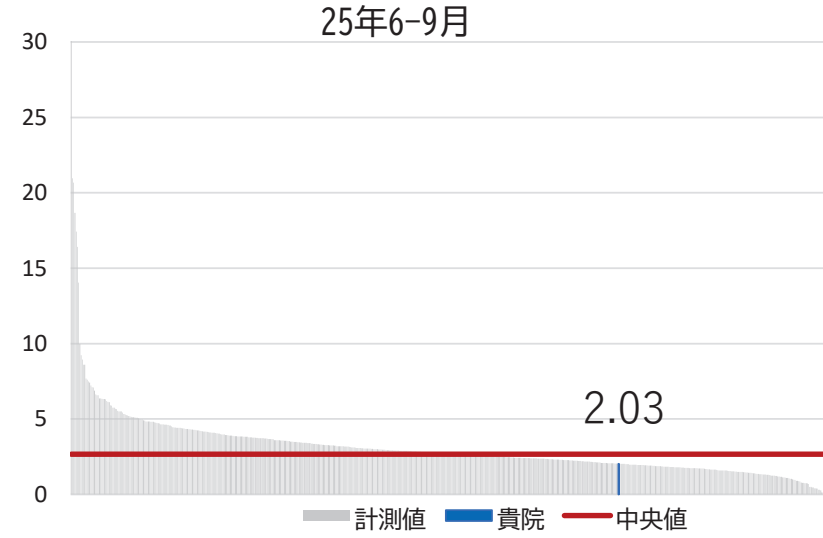
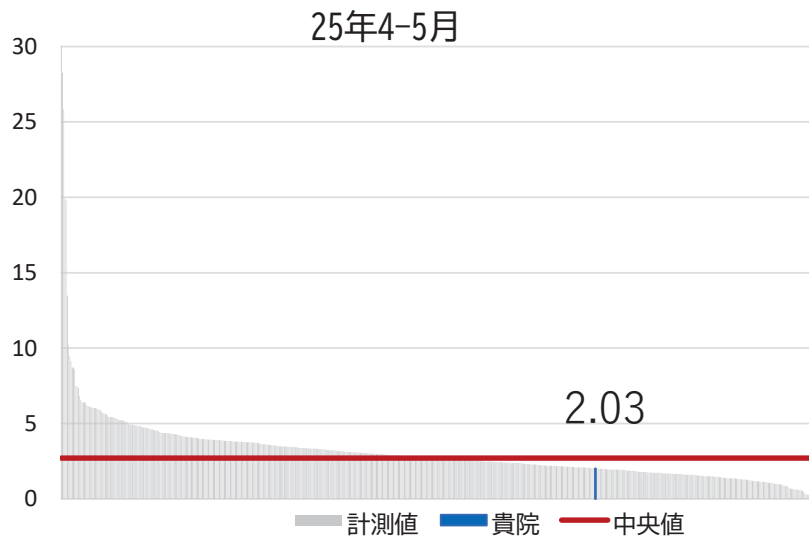
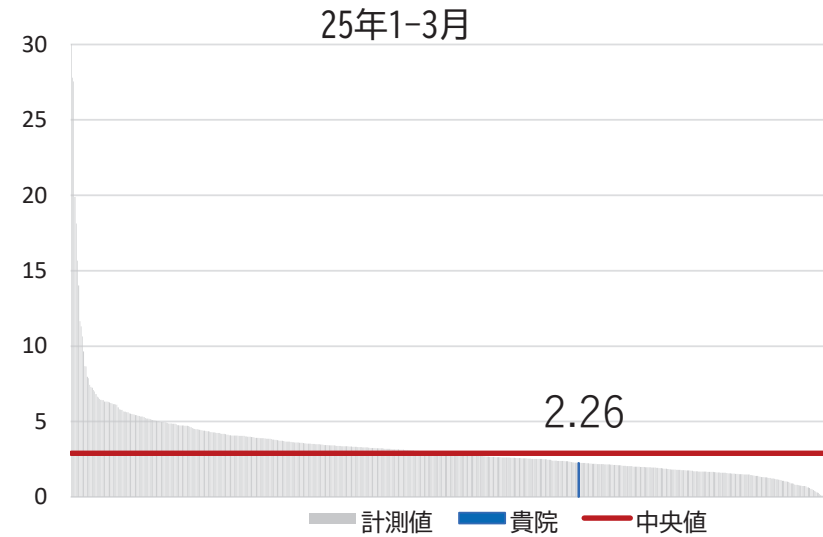
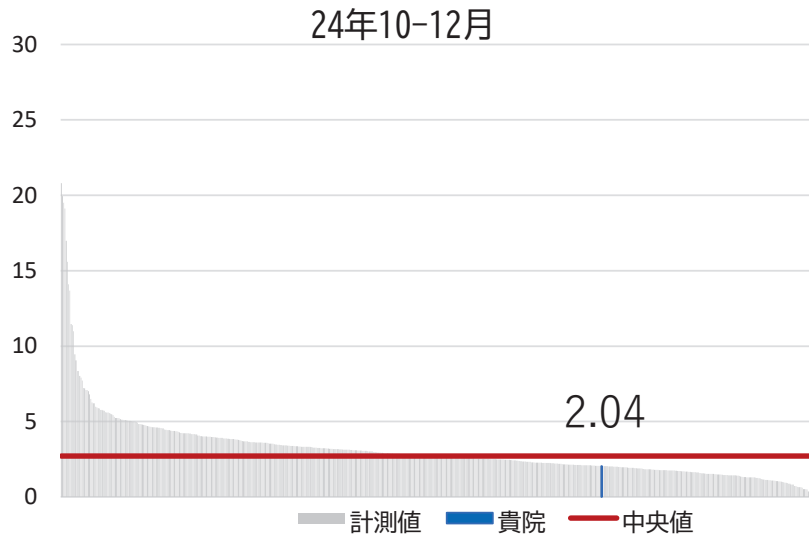


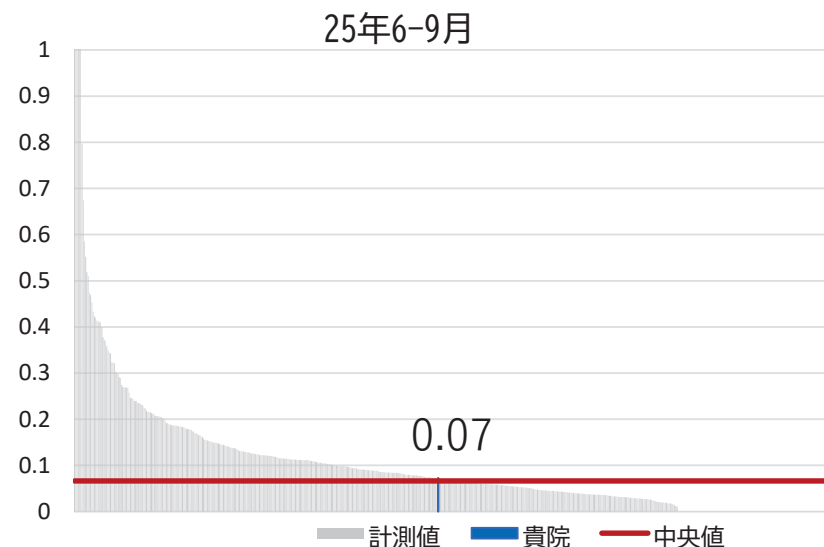
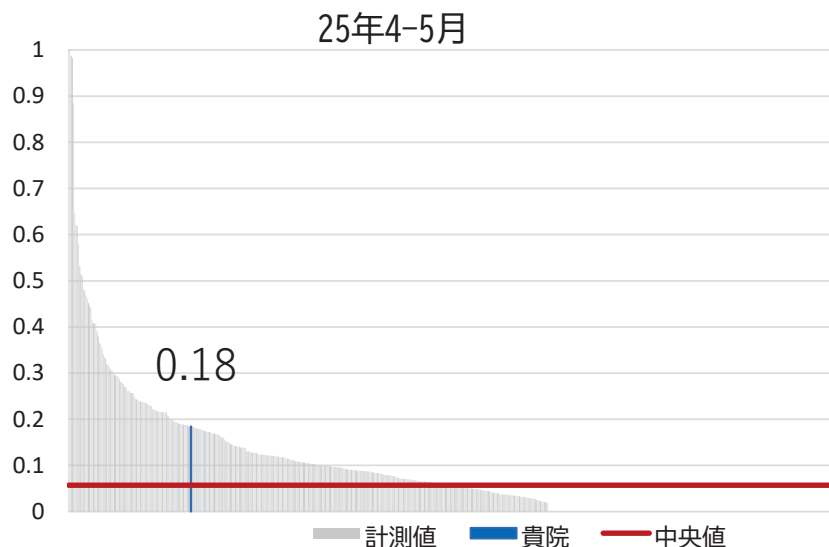
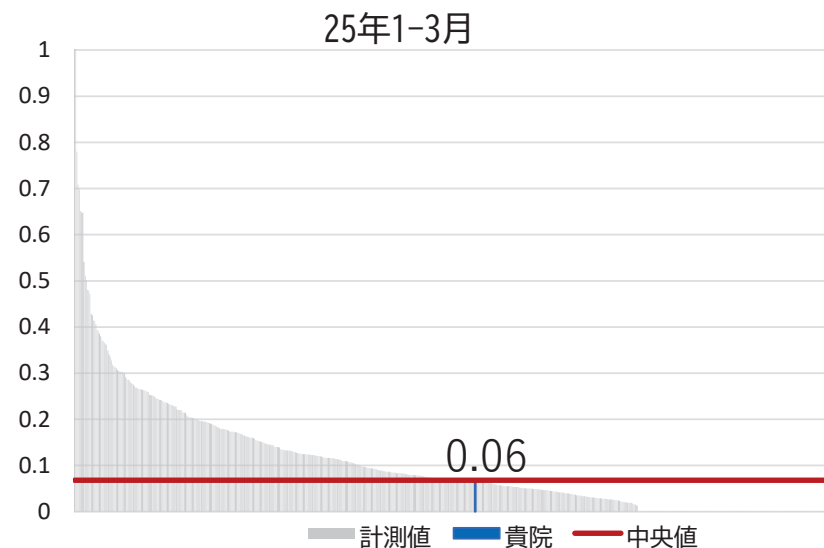
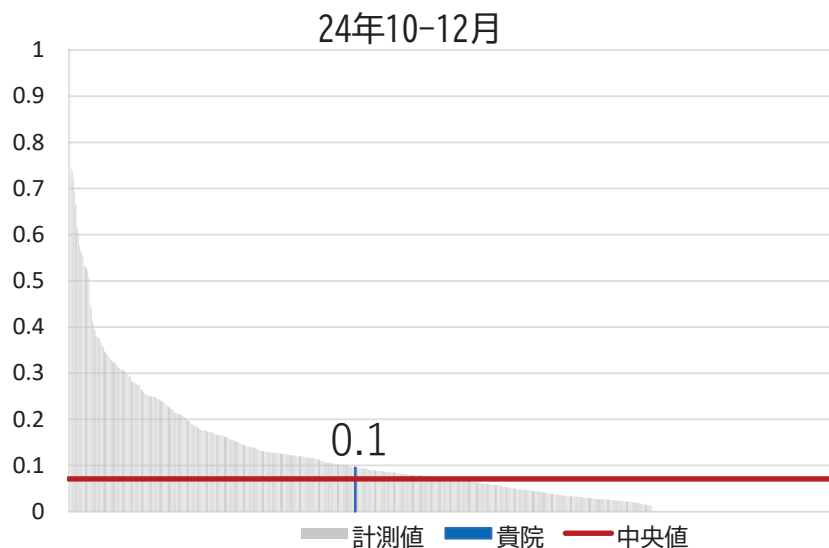
1. 転倒・転落発生率（入院患者の在院日数の総和に対する発生割合 ‰）

障害に至らなかった件数も含めて転倒・転落の発生件数を把握し分析することがリスク低減につながるとされています。



➡ 全国の中央値に比較して当院ではいずれの期間でも発生率は低くなっていました。

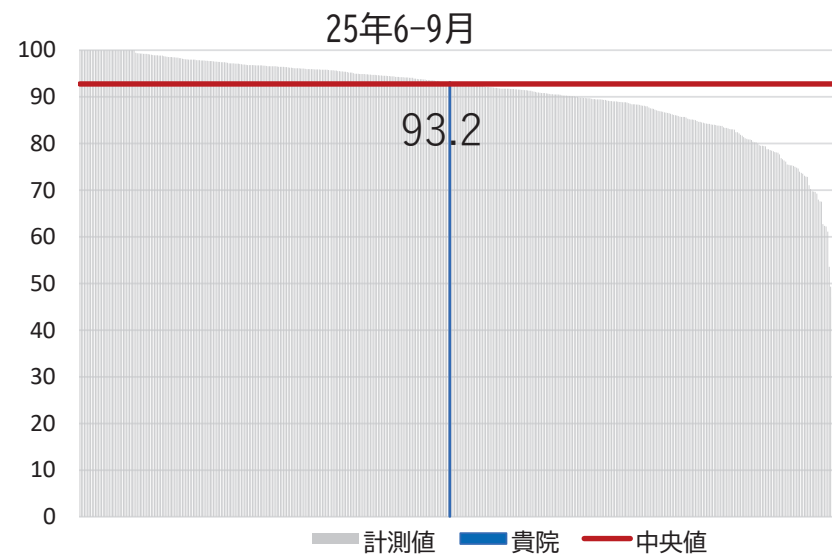
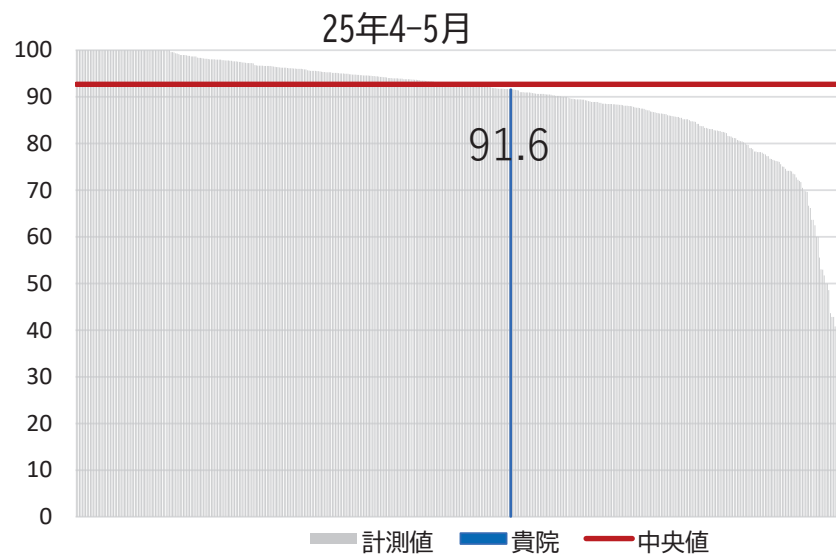
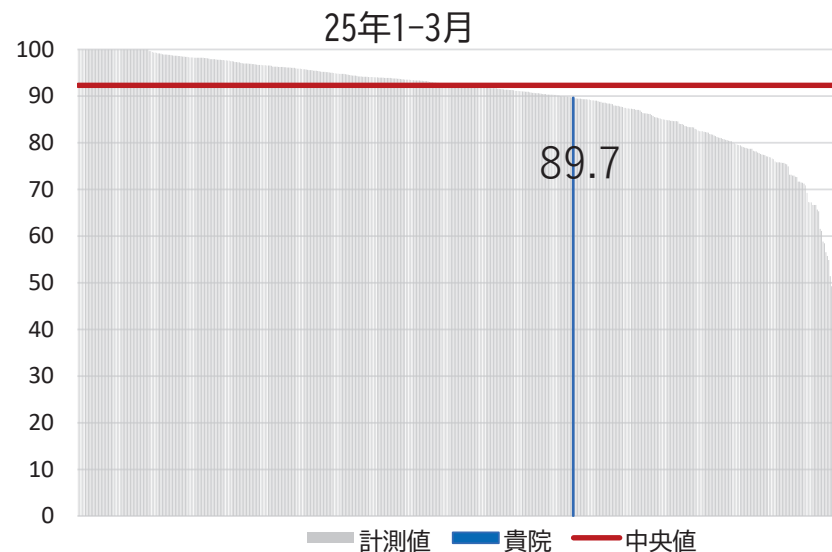
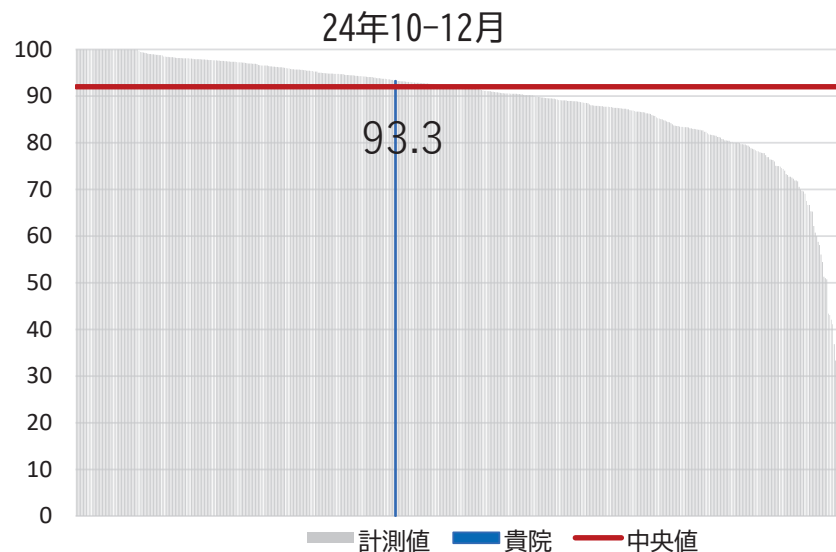
2. 転倒転落によるインシデント影響度分類レベル3 b以上（骨折などの障害発生例）の発生率（入院患者の在院日数の総和に対する発生割合 %）



➡ 全国の中央値に比較して当院では2024年10-12月期、4-5月期で発生率が高くなっておりました。重症化を予防するために衝撃吸収マットの導入を行いました。

3. 中等度以上の手術を施行した患者における肺血栓予防実施割合 (%)

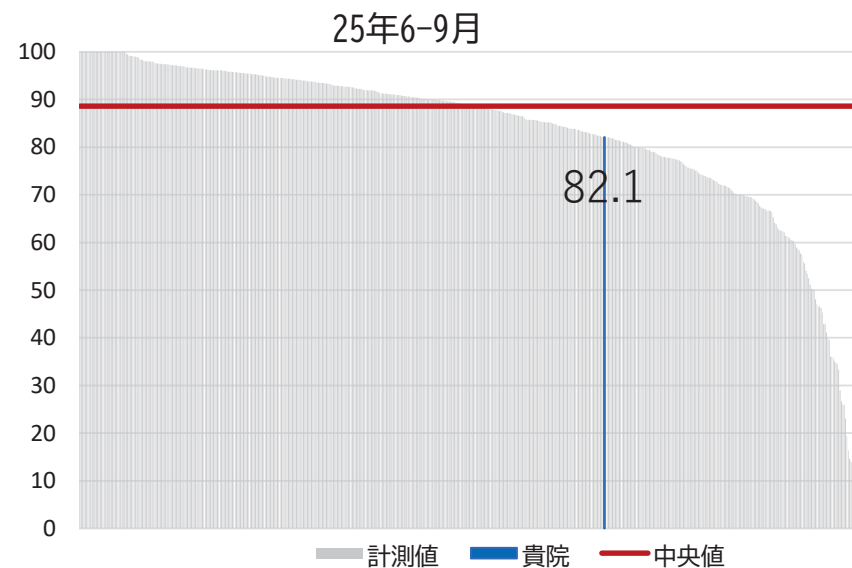
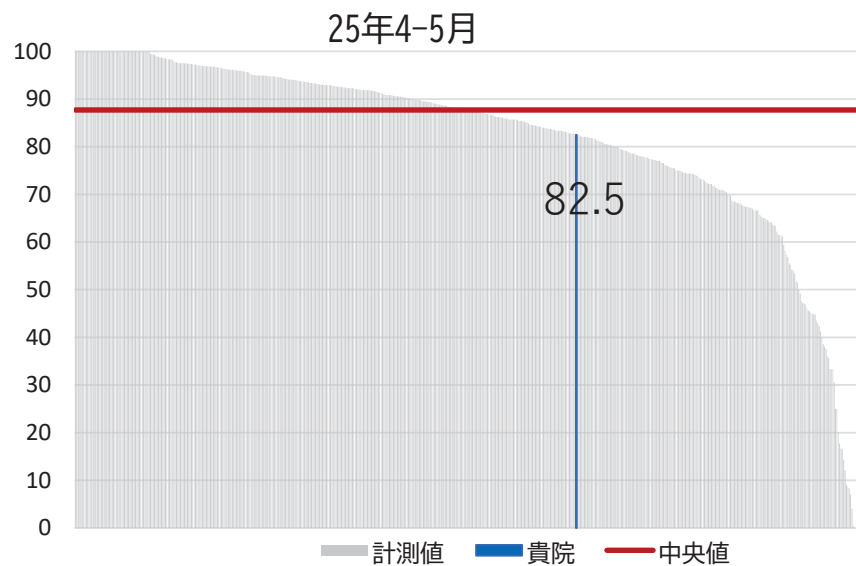
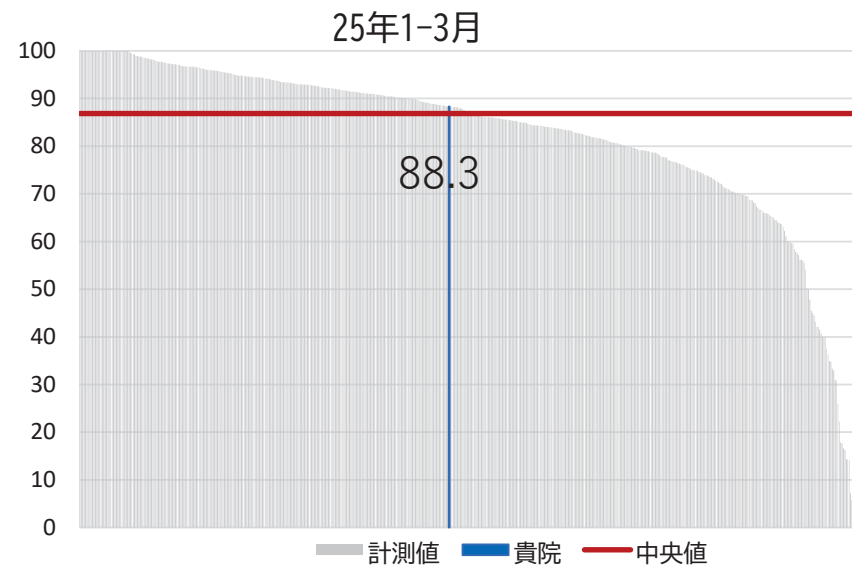
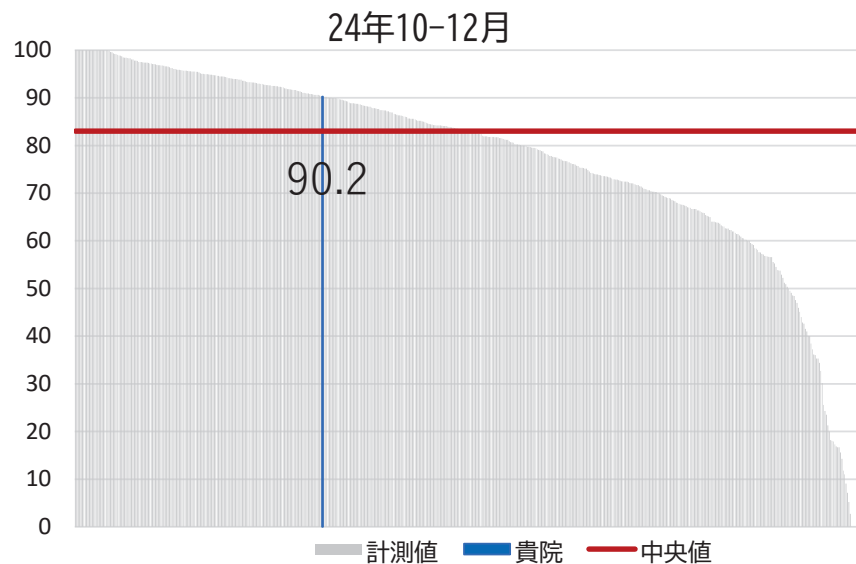
周術期の肺血栓予防行為の実施は発生率を下げることに繋がるとされています。



➡ 当院は全国の中央値とほぼ同等の割合で実施していました。

4. 血液培養2セット実施率 (%)

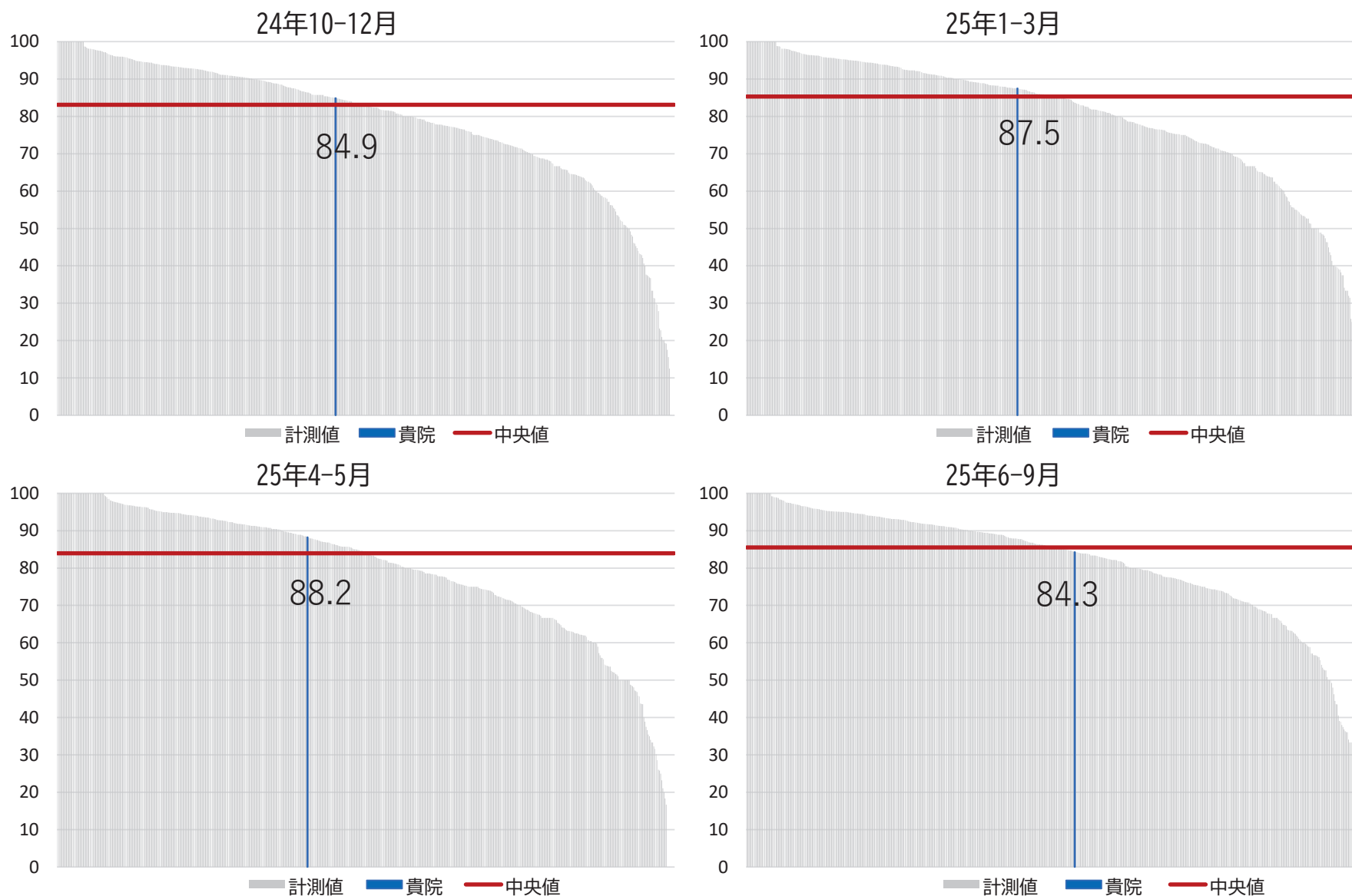
血液培養を行う際は偽陽性を防ぐために2セット行うことが推奨されています。



➡ 当院は全国の中央値とほぼ同等の割合で実施していました。

5. 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率（％）

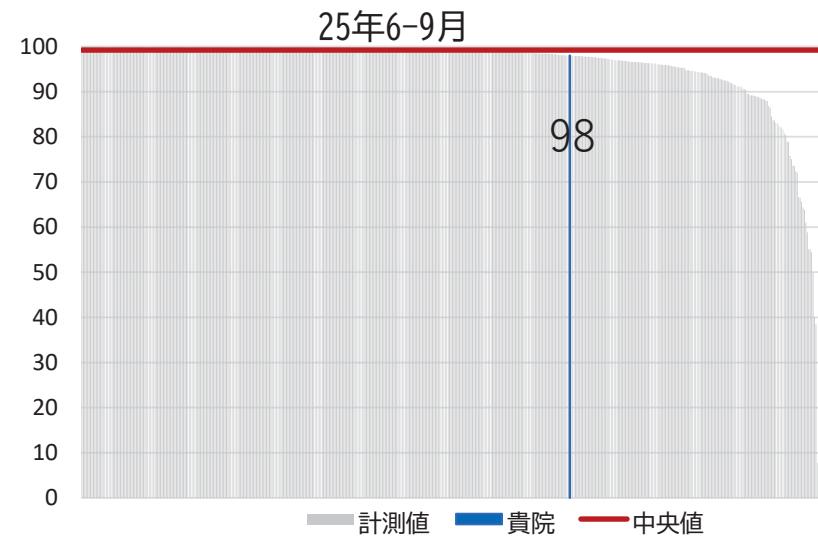
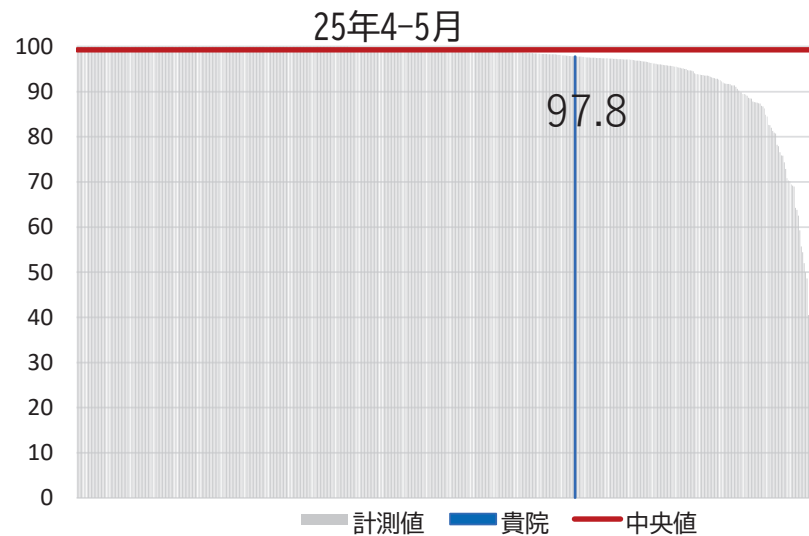
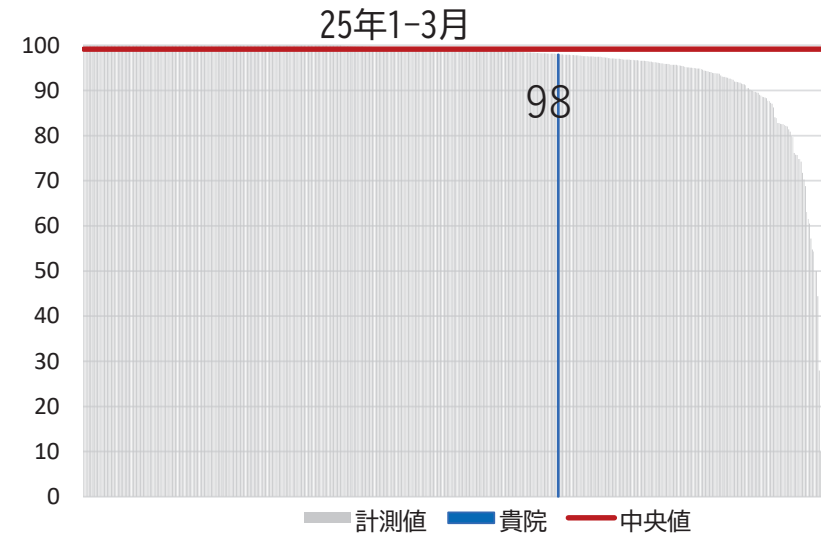
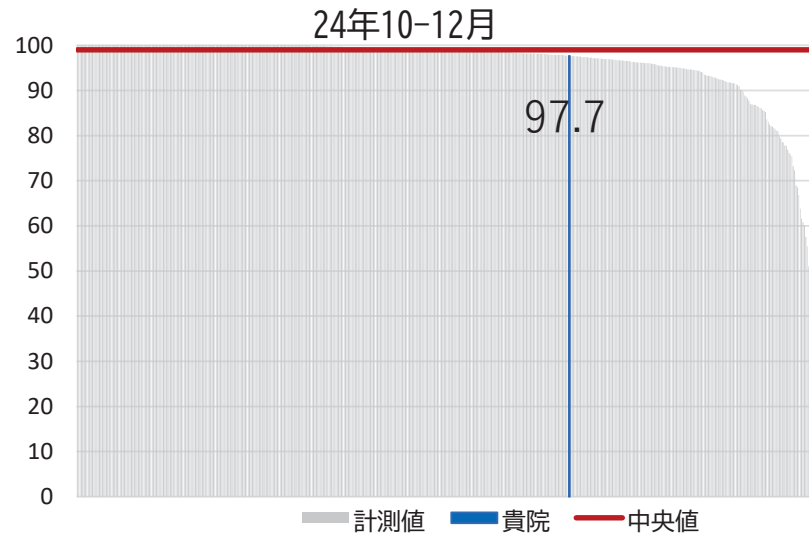
抗菌薬耐性菌の出現が世界的に問題となっており抗菌薬適正使用が求められています。広域スペクトル抗菌薬投与前の適切な培養検査が必要です。



➡ 当院は全国の中央値とほぼ同等の割合で実施していました。

6. 手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率（全身麻酔手術数における予防的抗菌薬投与割合 %）

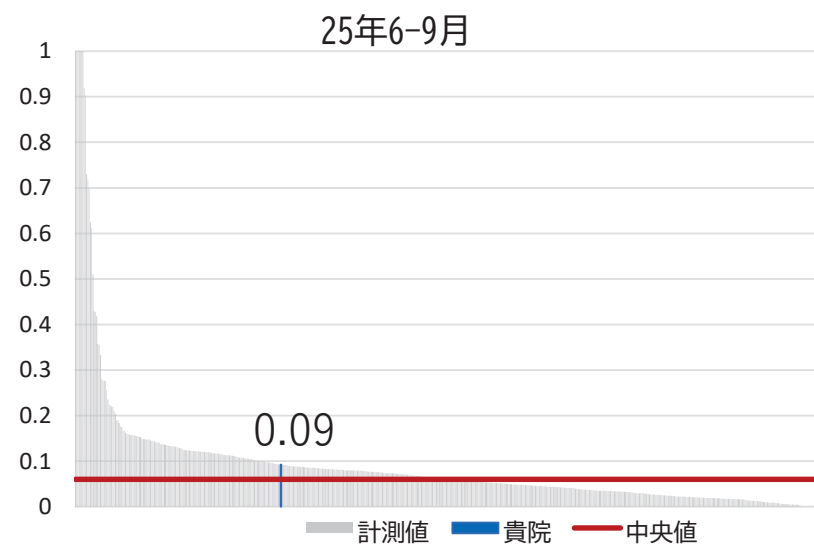
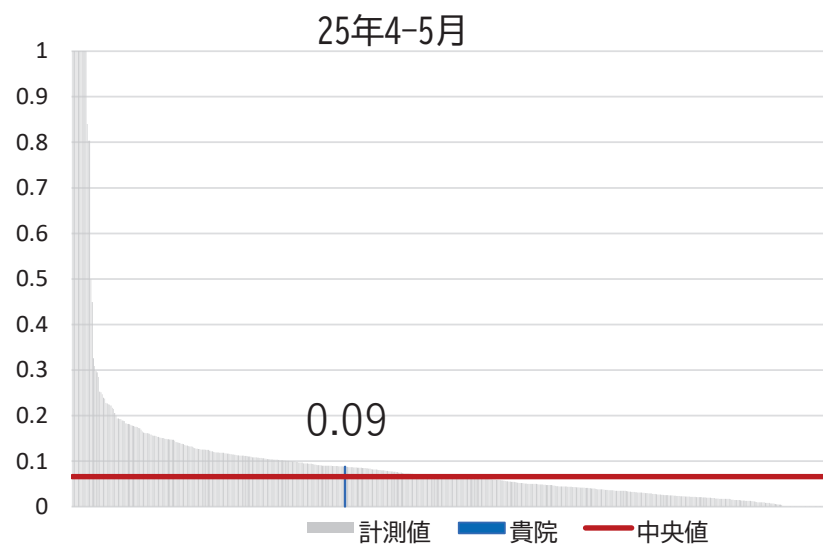
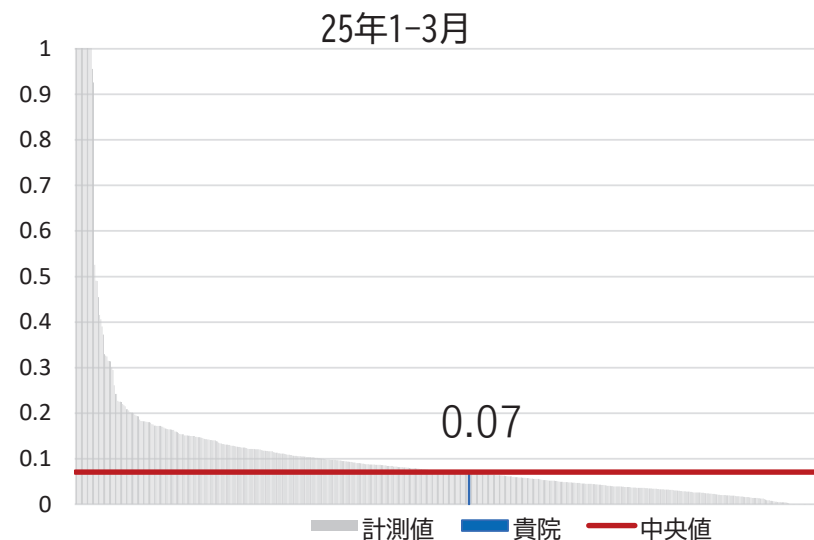
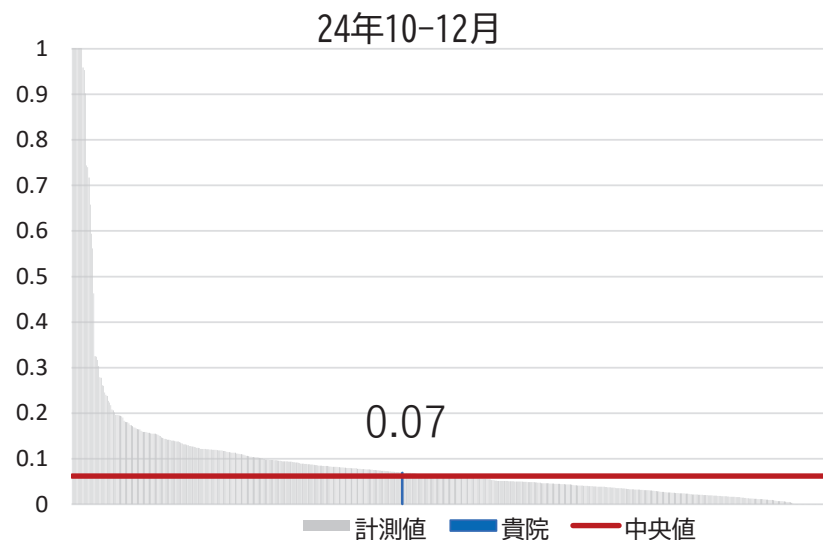
手術後の感染をできるだけ防ぐために抗生物質をあらかじめ投与することが重要です。



➡ 当院は全国の中央値とほぼ同等の割合で実施していました。

7. d 2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率（入院患者の在院日数の総和に対する発生割合 %）

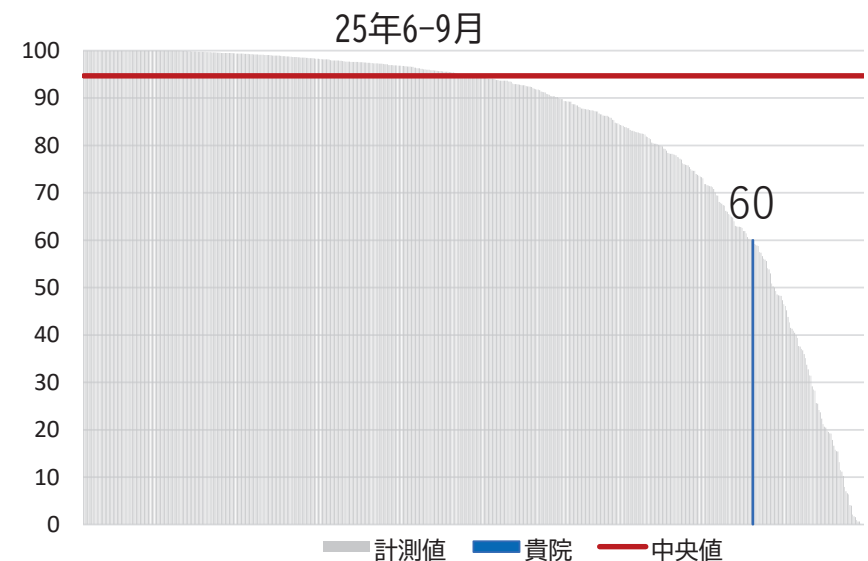
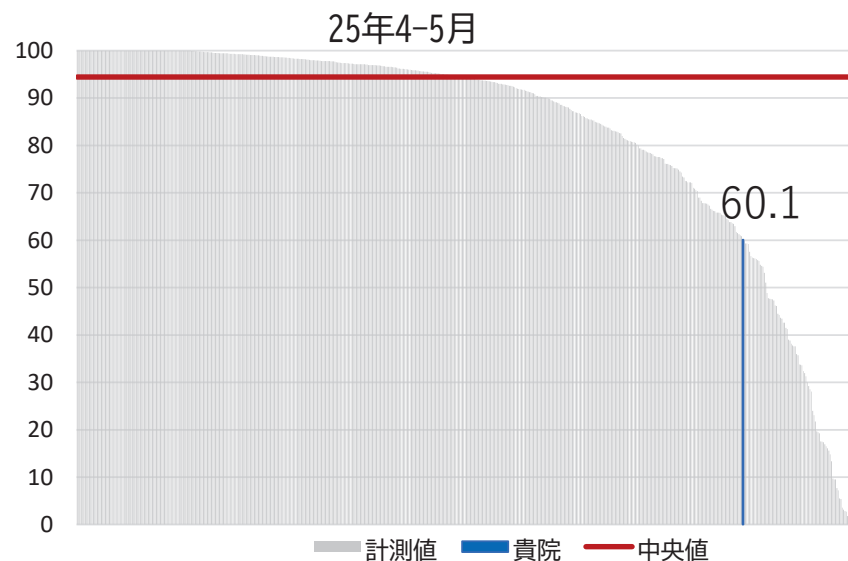
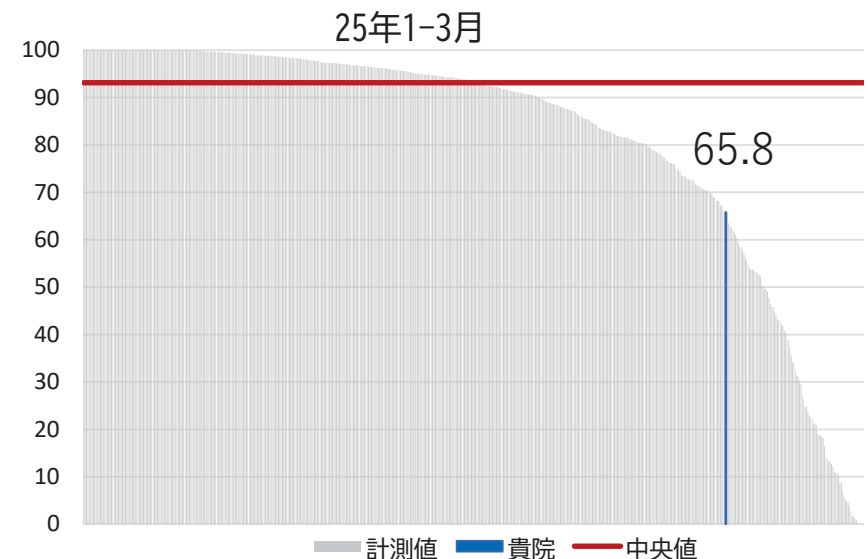
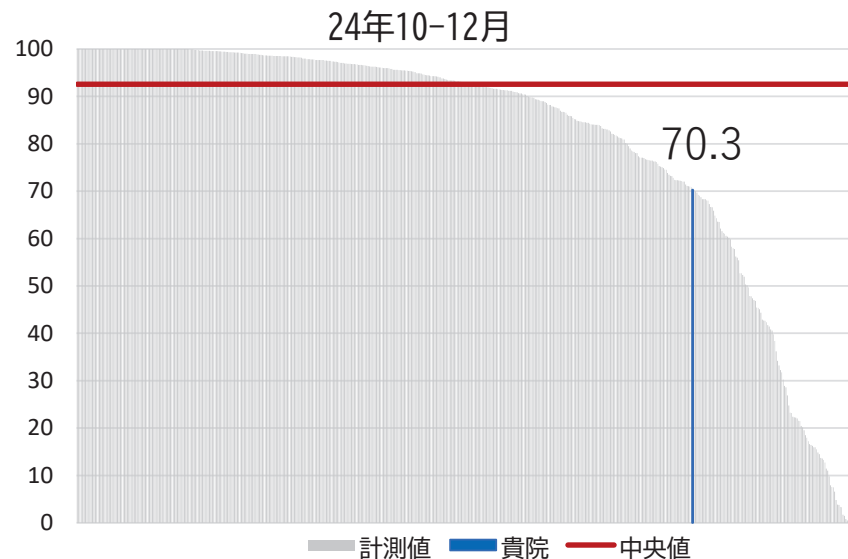
褥瘡は看護ケアの質評価の重要な指標の1つとされています。



➡ 当院の発生率は全国の中央値とほぼ同等の発生率でした。

8. 65歳以上の患者の入院早期の栄養アセスメント実施割合（65歳以上の入院患者数のうち48時間以内に栄養アセスメントを実施した割合 %）

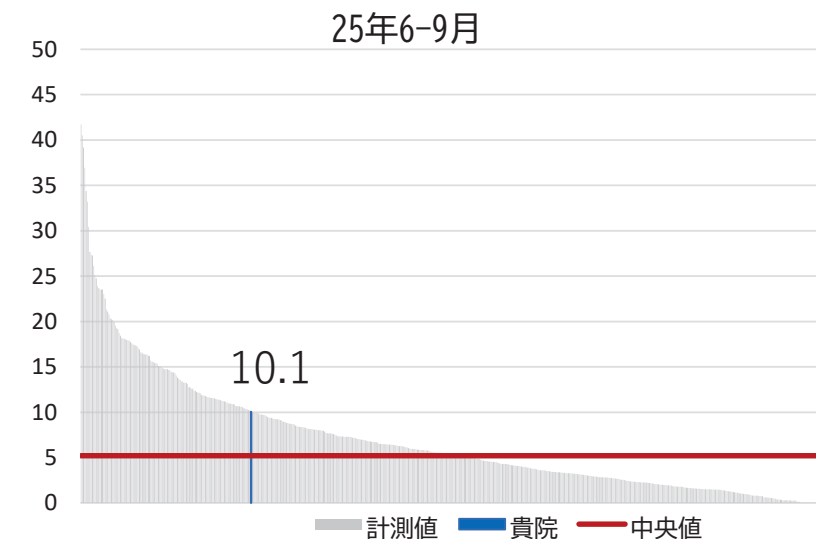
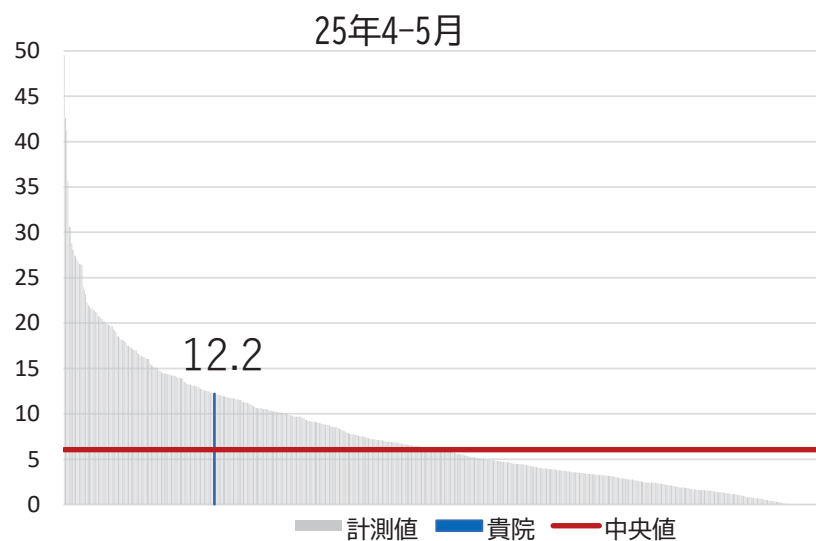
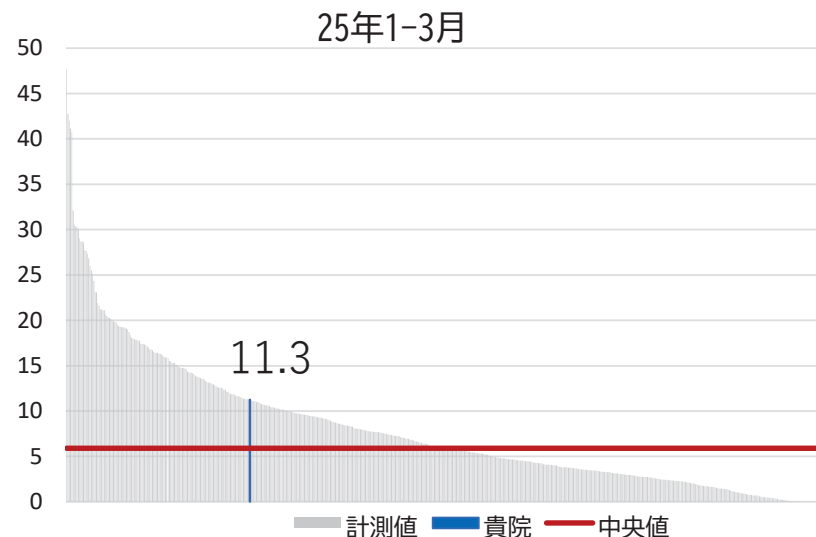
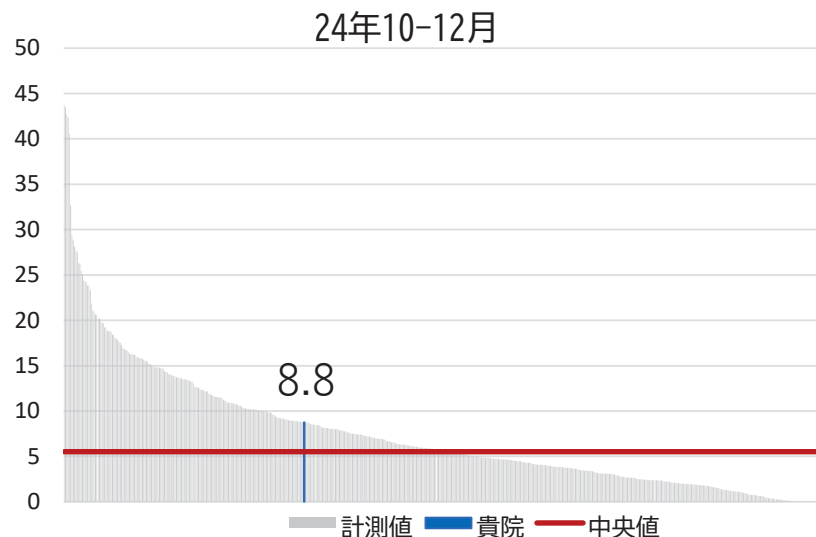
早期に低栄養リスクを評価し、介入することで予後の改善につながります。



➡ 当院ではいずれの期間も全国の中央値よりも低くなっておりました。栄養管理室と情報共有し実施率を上げていきたいと思っております。

9. 身体拘束の実施率（入院患者の在院日数の総和に対する拘束日数の総和 %）

身体拘束は代替方法が見出されるまでのやむを得ない処置であり、できる限り早期に解除しなければなりません。



➡ 入院患者の年齢構成による影響が大きくなる指標ではありますが、当院ではいずれの期間においても実施率が全国の中央値よりも高くなっていました。改善に向けてさらに努力してまいります。